

<祈りのために>

「更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、『もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう』と言った。」

(マタイによる福音書4章8、9節)

悪魔とは神に反対する霊的な力です。それは神によってしりぞけられ、滅亡に定められながらも、なお現実の力として世界の中に働いています。悪魔にとって主イエスの出現は衝撃であり、自分の知恵と力の一切を使って、イエス様を陥れようとしてきました。

悪魔はここで「ひれ伏してわたしを拝むなら…」と言ったと書いてあります。しかし、これは誰が聞いてもたいへん露骨な言い方で、かりに信仰が未熟な私たちが同じ言葉で誘惑されたとしても、そう簡単にはひっかからないでしょう。ましてイエス様です。悪魔にしても、そんな言葉でイエス様を陥落させることが出来るとは思っていなかったかもしれません。だとすると、これはおそらく、イエス様の体験がわかりやすく伝えられた結果でありまして、実際には「わたしと手を組みましょう」ということだった可能性も十分に考えられるのです。

悪魔はこのような言葉で誘惑したのではないのでしょうか。「イエス様、あなたは世界の王となるべきお方ですが、ただ、それをどうやって実現するかが問題です。あなたはたいへん志の高いお方ですが、まっとうな手段だけでそれを実現できますか。どうせこの世は金と色、それが人間なので、現実と妥協することも必要なんです。私と手を組みましょう。あなたはご自分が正しいと思われたことに向かって邁進していったらよろしい。私は汚れ役を引き受けます。アメとムチで人々をまとめて、あな

たの理想が実現するよう力を尽くしましょう。どうか私を信じてください。」

この時、主イエスは、「あなたの神である主を拝み、ただ主にのみ仕えよ」という聖書の言葉を持って来ることで、悪魔を追い払われました。

悪魔が提供するこの世の幸せは、人間を本当の意味で幸せにするものではありません。悪魔と悪魔に魂を売った人たちが、歓楽にふけっているように見えたとしても、心の奥底をのぞいてみればすべて絶望の淵にあります。というのは、悪魔はいつの日か必ず神によって滅ぼされる定めであり、それを悪魔自身も知っているからです。

こうなると、何が彼らの苦手とするところかがわかってきます。それは無視することです。もともと人々の注意を引きつけたくてたまらない連中なのだから、これにはこたえます。もしも皆さんが、悪魔の誘いに立ち向かう自信がない時は、そうするに限ります。下手に相手の土俵に乗って引きずりこまれるくらいなら、むしろ全く取りあわないことです。そうすれば彼らは引っこみます。

そうして私たちがなお積極的に出たいのなら、彼らがふるえおののく手があります。それが信仰です。神である主を拝み、ただ主に仕えること、他のどんな力にもより頼まないことです。それは人間の力では出来ないことであっても、神によって出来るのです。

<祈り> 神様、主イエスを信じて礼拝する私たちを、悪魔と妥協して自分のいのちや生活を守ろうとするのではなく、何よりもまず神の国と神の義を求める者にして下さい。

(井上豊、広島長束教会牧師、大会靖国神社問題特別委員会委員)

新シリーズ『いま なぜ 大嘗祭か』を読みなおす (27)

小塩 海平 (東京告白教会 長老)

Q28 キリスト者であることと「日本人」であることとは、どのように考えたらよいのでしょうか？

A わたしたちキリスト者は、救い主イエス・キリストによって罪の赦しの恵みにあずかり、神の国の民とされました。この約束を待ち望みつつ、神の国の福音の証し人としてこの世に遣わされています。

わたしたちが日本人であるということは、神から遣わされた者として、この国の中で主の恵みを証しすることが求められています。わが国のいろいろな課題の中であってこそ、真の神を証しし、神の恵みを宣べ伝え、神の国の証しを立てることが必要です。

異教社会の中で、様々な偶像化の嵐のただ中でこそ、主イエス・キリストの主権と勝利を信じ、それを証しし、それを待ち望むことがキリスト者の使命です。わたしたちの地上の国籍は、天にある国籍を思い、それに従い、それを証しする場合にだけ、わたしたち自身にとっても、またわたしたちの国にとっても祝福となるのです。

新 Q28-1 この問答は「日本人」のみを想定していますね。「わが国」という言葉遣いからも、日本キリスト教会が日本人のみによって成立し、会員が日本国内に居住していることを前提しているように読めてしまいます。

新 A28-1 趣旨としては「キリスト者にとって国籍はどのような意味を持ちますか」ということを明らかにしたかったのだと思いますが、はからずも日本人意識が露呈しているように見えますね。ピリピ書3章20節の「わたしたちの国籍は天にある」(口語訳)を前提とした問答だと思いますが、この訳も「国籍」でよいかどうか、検討が必要です。英訳聖書では大抵 citizenship になっています。

新 Q28-2 そういえば、ペンテコステの記事(使徒行伝2章)も英訳聖書では大抵は tongue なのに、日本語聖書では、「他国の言葉」(口語訳)とか「ほかの国々の言葉」(新共同訳)となっていますね。国家が介入する必要はなかったはずですが…。

新 A28-2 本問答は「わたしたちの国にとっても祝福となるのです」という言葉で結ばれていますが、国家がそもそも暴力装置であるという考察が足りないのではないでしょうか。

かつて沖縄や朝鮮半島、台湾などで、標準日本語を強要することが植民地化の推進と差別構造の創出の強力な手段であったことを考えれば、安易に「国籍」とか「国語」とかいう言葉を使うことはできないはず。 「国語」が同化装置として作用するように、「国籍」も強力な暴力装置として機能しており、そのことは、例えば、今日における在日コリアンに対するヘイトスピーチからも明らかです。

新 Q28-3 それでは、あなたはキリスト者として、日本人であることをどう捉えていますか？

新 A28-3 今年の3月28日、もとBC級戦犯者の李鶴來(イ・ハンネ)さんが96才で亡くなりまし

た。このかたは日本の植民地下にあった朝鮮で生まれたために捕虜監視員として戦争に駆り出され、最底辺の軍属として伝書鳩以下の扱いを受けたにも拘わらず、捕虜に食事や薬を十分に与えず、上官の命令に従って泰緬鉄道建設に動員したことを問われて日本人として死刑判決を受け(のちに減刑)、戦後は第三人という理由で補償や援助の対象から外されました。この象徴的な事例から明らかのように、李さんは日本国籍を一方向的に付与されたり、剥奪されたりすることによって、人生を翻弄されてきました。このことは、ある人々の「日本人である」という状況が、他の人々の「日本人でない」状況と表裏一体の関係にあることを示しています。つまり、ある人が日本人であることによって享受できている日常生活は、他の人が日本人でないことによって奪われている当然の権利を踏み台にしていることを意味します。キリストは、日本国籍を持たない人のためにも贖いのみわざを果たされたわけですから、わたしたちが日本人のみを伝道と奉仕の対象と見なしている限り、日本人であること自体によって裁かれることになるはず。

新 Q28-4 日本人であることによって裁かれるというのは、理不尽ではありませんか？

新 A28-4 理不尽ですが、それはかつて日本人でないというだけの理由で殺されたり、慰安婦にされたり、徴用工にされたり、日本語や日本名を強要されたりした人々の味わった理不尽の裏返しです。

新 Q28-5 国籍と言語の相対化が日本キリスト教会の課題と言えそうですね。

新 A28-5 私はそのことを表明するために、名称を「在日本キリスト教会」に変更するのがよいと考えています。この課題と取り組むことは、寄留の外国人をかけがえない隣人として愛し、仕えていくことと連動しています。

本の紹介：松谷曄介編訳『香港の民主化運動と信仰の自由』（教文館 2021）

大石周平（府中中河原教会牧師）

本書は、香港や中国大陸に生きる方々との「友情」をめぐる、告白と祈り・証と訴えの「魂の記録」である。編訳者の松谷曄介牧師によって集められた現地の声が、広東語や北京語から深い共感をもって邦訳された。そこに、自由都市香港を心から愛し、それゆえ胸を痛めもする日本からの応答が折り重なる。私たち読者もまた、魂の触れ合いの場に身を置いて、泣く者と共に泣き、自由を求めて主を仰ぐ、祈りの交わりへと招かれる。祈る者は共に伏し、共に立って、主と共に生きる。本書を貫くものは、預言者ミカ言葉に要約できる。

「人よ、何が善であり／主が何を前にお前に求めておられるかは／お前に告げられている。

正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである。」（ミカ6：8）

全体は4章からなる。《第1章：「香港牧師ネットワーク」と「香港2020福音宣言」》では、告白教会の「バルメン宣言」を範（はん）とし、福音派の「ローザンヌ誓約」の心をもつ信仰告白と祈祷文が、「香港教会の歴史的な一里塚」として紹介される。起草者による解説やインタビュー記事と並んで、朝岡勝牧師による明解な手引きも理解を助ける。師によれば、「香港2020福音宣言」の眼目は、これが①「福音の」宣言であり、②「教会の」宣言であり、③「今、この時」に適って④祈りと行動を促す宣言であるという4点にある。

《第2章：香港国家安全維持法と信教の自由》は、日本における香港政治の専門家・倉田徹教授（立教大学）と、香港の教会を代表する袁天佑教師（引退牧師）、ならびに中国キリスト教研究の第一人者・邢福増教授（宗基神学院）による三文書からなる。一国二制度下の民主化運動と信教の自由について、なかならず香港国家安全維持法〔国安法〕下の教会の課題について、明晰かつ詳らかに論じられる。2014年の第一波（雨傘運動）から19年の第二波（「逃亡犯条例」改正反対運動）を経て、昨年の第三波（国安法）に至

り、「中国化」の波に呑み込まれた香港社会では、分裂と疎外の不安が増している。教会も例外でなく、信徒のどの言動が国安法に抵触し、「国家政権を転覆させる行為」や「外国勢力と結託して国家安全に危害を加える行為」等として断罪されるのか、解釈においても分裂して、全体としては萎縮する。「香港は一個充滿希望的絶望地方 Pray for Hong Kong!」（香港は希望に満ちた絶望の地。香港のために祈って！）。雨傘運動時に路上に貼られた祈りの訴えが、今年2月に行われた出版記念会で紹介されていたことを、本章を再読して想起した（記念会記録動画→https://www.youtube.com/watch?v=_zanzr-be6M）。

《第3章：香港民主化運動におけるキリスト者の声》では、激動の日々にも自由な夢を語った民主化運動の指導者たちによる三者三様の文書が訳出される。法学者として学問と信仰の一致点を求めた戴耀廷教授は、「正義」に道を見出した。法廷での最終陳述を「説教」と呼び、涙ながらに語った朱耀明牧師は、貧しき者と共にあって良心の鐘を鳴らす者が持つ「信」の力は誰にも奪えないことを証しした。バチカンと中国政府との狭間に立った陳日君枢機卿は、双方にあい対してでも「自由」の意義を訴えた。

《第4章：中国大陸の信教の自由》では、香港に先立ち「宗教の中国化」の波に晒された大陸の先例が紹介される。29名が名を連ねた「キリスト信仰のための声明」と、その起草者のひとり・王怡牧師が、「国家転覆扇動罪」で捕らえられた中国初の牧師として公表した「私の声明——信仰的不服従」。これらは、改革派神学に裏付けられた告白文書として、バルメン宣言以降最も重要な声明に数えられて良いものである。

あとがきも含め、引用してご紹介したい言葉が多すぎて、本稿をまとめることは難しかった。ぜひ本書を手に入れていただきたい。そして一緒に、アジアの兄弟姉妹が示す主の道を、祈りつつ歩みたいと切に願う。

内閣総理大臣 菅義偉さま

靖国神社の春の例大祭に内閣総理大臣の名で真榊を奉納したことに抗議します

あなたは官房長官時代には靖国神社の例大祭において真榊の奉納をしていませんでしたが、内閣総理大臣になるや否や、「内閣総理大臣 菅義偉」名で、昨年秋の例大祭においても、今回の春の例大祭においても、真榊を奉納しました。このことは、あなたが首尾一貫した個人的な信仰によって奉納を行っているのではなく、内閣総理大臣という権威を帯びた人間として、政治的な意図をもって、宗教法人たる靖国神社の公式行事を利用していることを意味します。このような打算的で日和見的な行動は、それ自体軽蔑されるべきものですが、ここに改めて政治による宗教利用の害悪を指摘しなければなりません。

靖国神社の例大祭では、天皇の勅使が「御幣物」を献じ、「御祭文」を奏上しますが、このような行為は、かつて天皇の命令で戦争に参加し、虚しく命を落とした者たちの死を、現在の天皇が国家のための名誉ある戦死と意義づけ、過去の戦争を肯定・美化すると同時に、国家と天皇の責任を不問にし、被侵略国であるアジア諸国の人々の心の痛みを蹂躪する行為というほかありません。韓国や中国の政府がただちに失望と遺憾を表明したのは当然のことであり、あなたが内閣総理大臣の名において真榊を奉納した行為は、天皇の宗教活動を政治利用するものに他ならず、アジアにおける平和外交を著しく損なう行為です。

靖国神社に合祀されているものの中には、戦闘によって死んだ軍人・軍属だけでなく、病死したもの、未帰還者で死亡したと見なされているもの、疎開中に死没した学童、植民地出身の死没者などが含まれ、彼らを死に追いやった責任者である A 級戦犯とともに一括して英霊と称えるのは、死者と遺族を冒瀆する行為にほかなりません。

わたしたち日本キリスト教会は、教会の総意として靖国神社の国家護持や天皇・首相らの靖国神社参拝に反対すると共に、私たちの愛する家族を英霊として祀らないよう靖国神社に申し入れてきました。わけても日本基督教団時代の 4 人の教師が祭神として祀られていることを拒否し、祭神名簿から抹消するよう要求し続けています。

今回、あなたが内閣総理大臣の名をもって真榊を奉納した行為は、キリスト者であるわたしたちの信仰の良心にとって耐えがたい苦痛であり、決して容認できません。

今回の行為を痛切に反省するとともに、靖国神社の例大祭をはじめとする諸行事への関与、わけても宗教の政治利用の極みである 8 月 15 日前後における参拝や代理参拝を行わないよう、強く要請致します。

2021 年 4 月 22 日

日本キリスト教会大会靖国神社問題特別委員会 委員長 小塩海平

<編集後記>オリンピック開催や緊急事態宣言などに関する報道に隠れて、デジタル改革関連法案が衆議院で可決され、5 月にも成立する見通しとのこと。わたしたちの病歴や買い物歴など、あらゆる個人情報本人の同意なく、無制限に吸い上げられ、強力な監視社会が構築されようとしている現実には恐怖を覚えずにおられない。(K.K.)

796号ヤスクニ通信 2021年5月9日
発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会
発行人・編集・発行 小塩海平 (東京告白教会)